

令和元年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市政結和
議員名	我妻静夫・金濱元一・岡田健一・早川昇三・南川達彦・鈴木和彦
調査実施年月日	令和元年度11月14日
調査先 自治体名等	石川県 野々市市
調査項目	学びの杜ののいちカレードについて
調査目的	図書館を中心とした複合施設の建設と運営について
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口： 56, 367人（令和元年10月1日現在） 行政面積： 13. 56km²</p> <p>2 視察内容 野々市市では、学びの杜ののいちカレードを視察した。ののいちカレードは、市内中心地の活用、公共施設の老朽化、学び・文化・芸術の拠点の要望を背景に建設。平成25年の市内中心地区再生整備の検討からはじまり、市民参加型のワークショップで市民意見を集約し、平成29年に開業。建設方法はPFI方式を採用し、運営は指定管理者制度で行われている。施設は、1階に図書館、ギャラリー、陶芸・大エスタジオ、音楽スタジオ、キッチンスタジオ、研修会議室を配置し、2Fには学習室（防音とフリースペース）が配置されている。図書室には、幕の上下によって空間を仕切り、読み聞かせスペースも作られている。図書館機能を囲むように貸館機能の配置し、貸館の近くに関係する書籍を並べることで、貸館利用者が活動にかかわることをすぐに調べる事が出来るようにしているという工夫がみられた。実際に音楽関係の利用者からすぐに歌詞を調べたという成果も出ているとのことであった。</p> <p>ソフト面では、予約システムでの学習室の利用管理や自動貸出機の導入、電子新聞(サイネージ)の導入、電子書籍の貸し出しといった特徴的な取り組みを行い、スタッフの負担の軽減や人件費の削減などの成果につながっているとのことであった。</p> <p>施設開設から2年経ち、利用者は成果指標として定めた数字を超えているが、稼働率の低い貸室の稼働率を上げることや野外でのイベントの実施などを課題として挙げられていた。</p>
感想（まとめ） 本市へ生かせること 等	<p>学びの杜ののいちカレードを視察してみて、財政規模の小さい自治体において施設を集約・複合化することで様々な目的の市民を集め、スケールメリットを生かした運営をすることで、合理的に施設周辺地域の活性化を図る重要性を再認識した。また、ただ施設を集約するだけではなく、施設内機能の配置を連携できるように計画する工夫など事前に検討しておくことが重要であった。さらに、本市で施設建て替えの際には、設定されていない施設の利用目標を立てることで</p>

運営の評価を適正に行うことが出来ることが分かった。

これから環境科学館、図書館の建て替えに向けて、視察の学びを活かしていきたいと思う。